
5年 研究授業計画

東二番丁小学校 5学年担任 石井 妙子

1 研究教科 総合的な学習の時間

2 共同研究における目指す子ども像

- (1) いくつかの理由や根拠を挙げながら、自分なりの考えや意見を持つ。
- (2) 内容の構成や伝え方を意識し、自分なりの考えや意見を表現する。
- (3) 互いの考えや意見を伝え合い、異なる意見も意識しながら自分の考えを広げる。

3 総合的な学習の時間でめざす児童像

日常の中から調べたい課題を設定し、課題解決に向け進んで物事にに関わり、自分なりの意見を持ちながら、友だちの意見を聞くことにより考えを広げたり深めたりし、自分の生活に生かしていこうとする。

4 児童の実態

お互いについてよく分かっているので、できないことがあっても寛容な傾向にあり、学級全員の仲が良く、優しい言葉を掛けることが多い。互いを尊重し合う良い面ではあるが、自分なりの考えをしっかりと持ち、進んで伝えようとする意欲や態度においてはいま一歩である。また、探究的活動に取り組もうとする意欲はあるものの、調べる方法や、対象への迫り方、調べたことをまとめ・表現する力は、個人差が大きい。生活環境が街中であることにより、自然と自らの暮らしとの関わりについての感心は高くはないが、自然体験をたくさんしていきたいという願いがあり、5年生での総合的な学習に活動に意欲を持っている。

5 言語活動の位置づけ

本研究は、小学校指導要領「総合的な時間」第一章「総則」(3)体験活動と言語活動の充実の「問題の解決や探究活動の過程においては、他者と協同して問題を解決しようとする学習活動や、言語により分析し、まとめた表現したりするなどの学習活動が行われるようにすること」に基づいて行う。

6 授業研究計画

- (1) 調べた資料やゲストティーチャーの話を、比べたり関連づけたりすることで、自分の考えを持ち、それを交流することで気づきを広げる授業。
- (2) 共通体験や体験に関わったゲストティーチャーの話を、比べたり関連づけたりすることで、自分の考えを持ち、それを交流することでさらに考えを深める授業。

7 技術課題

- ・児童の探究的活動に取り組む意欲を喚起する単元計画を工夫する。
- ・気づきをうながす話し合い活動の持ち方を工夫する。

◎ 教科の目標と研究内容の関連

(1) 指導要領より

〈 教科の目標 〉

横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。

総合的な学習の時間の目標は、

- (1)横断的・総合的な学習や探究的な学習を通すこと
- (2)自ら課題を見付け、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成する資質や能力を育成すること
- (3)学び方やものの考え方を身に付けること
- (4)問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育てること
- (5)自己の生き方を考えることができるようにすること

という五つの要素から構成されている。

各学校においては、(1)～(5)の目標の構成について十分に理解し、各学校において定める目標及び内容に反映させ、創意工夫して実践していくことが求められる。

(2) 今年度指導するポイント

- ① 身近な生活の中から課題を見つけ、調べたいことに関わるひと・もの・ことに直接関わったり、自分の日常を見つめたりふり返ったりしながら調べさせる。
- ② 生産や販売する人との関わりを通し、それぞれの思いを身近なものとして感じさせる。
- ③ 体験や考えを共有する場を意図的に設けることにより、互いの考えを伝え合い、それぞれの考えを広げたり深めたりさせる。